

## 高知市で発見されたクスベニヒラタカスミカメ

玉川晋二郎<sup>1</sup>

[Shinjiro Tamagawa<sup>1</sup>: The occurrence of *Mansoniella cinnamomi* (Zheng and Liu, 1992) in Kochi City, Japan]

キーワード：外来カメムシ，ムクドリ，高知市

### はじめに

2015年に日本国内で初めて見つかった外来のカメムシ、クスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* (Zheng and Liu, 1992) は、クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl の葉を加害するため、分布の拡大とともにクスノキにおける被害の深刻化が懸念されている（安永ほか，2016；長島ほか，2016）。四国への侵入もすでに確認されており，2018年には愛媛県（吉田，2018），香川県（藤本，2019；玉川，2020），徳島県（山田，2019）における報告がある。筆者は，高知県でも本種の発生を確認したので報告する。

### 【確認データ】

成虫 10 exs., 幼虫 1 ex., 高知市帯屋町1丁目（中央公園），24 XI 2019, 玉川晋二郎採集。標本の一部は徳島県立博物館にて保管。

本種が加害した葉には特徴的な茶褐色の斑紋（吸汁痕）（図1B）が生じることから，それらの確認は目視で行い，成虫および幼虫の採集は捕虫網を用いたスウィーピングにより行った。調査は一地点あたりおおむね10分程度行った。県内3市町合計5地点で調査を行ったところ（表1，図2），高知市帯屋町の中央公園からのみ本種の成虫および幼虫を確認した。高知自動車道を通って徳島県側から高知県に入って最初のパーキングエリアと

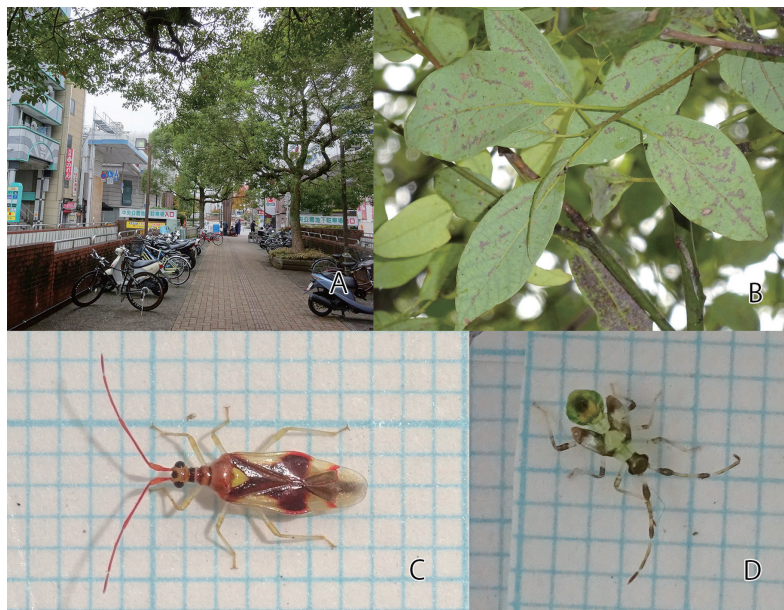


図1. クスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* の確認地点 (A), 吸汁痕 (B), 成虫 (C), 幼虫 (D).

2019年12月16日受付，12月17日受理。

<sup>1</sup>大阪市立自然史博物館外来研究員。〒761-0112 高松市屋島中町454-8. Guest Researcher of Osaka Museum of Natural History. 454-8, Yashimanakamachi, Takamatsu City 761-0112, Japan.

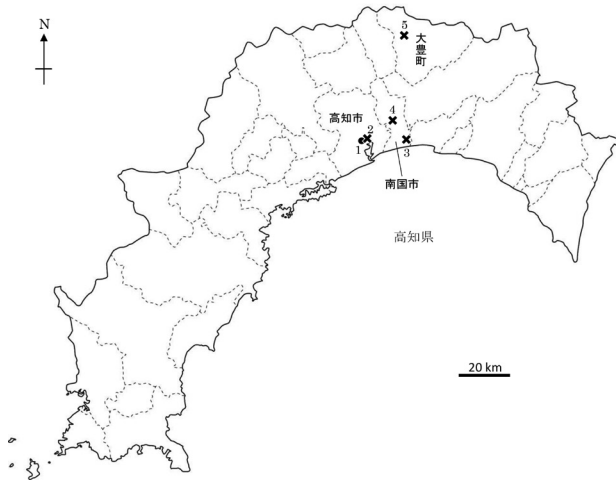


図2. 高知市、南国市、および大豊町におけるクスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* の発生状況 (図中の番号は表1の調査地点番号に対応)．●：成虫確認，×：調査したが未確認。

表1. 高知県におけるクスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* の調査地点.

市町村	町・字	地名	調査日
1 高知市	帯屋町1丁目	中央公園	11/24 ●
2 高知市	はりまや町3丁目	高知八幡宮	11/24 ×
3 南国市	物部乙	高知大学農林海洋科学部	11/24 ×
4 南国市	網豊町小蓮	高知自動車道南国SA(下り)	11/23 ×
5 大豊町	立川下名	高知自動車道立川PA	11/23 ×

●：成虫確認，×：調査したが未確認。

なる立川PAには店舗の前にクスノキが4本あるが、11月23日の調査では、成虫も吸汁痕も確認されなかった。南国SA(下り)では、クスノキが13本植栽されているが、ここでも同日の調査において本種による吸汁痕は見られなかった。なお、香川県西端にある高松自動車道の豊浜SA(下り)では、同日の11月23日にクスノキから成虫や吸汁痕が確認されている(玉川, 2020)。

11月24日は高知市中心部で調査を行った。高知八幡宮境内にはクスノキの大木が数本あるが、本種による吸汁痕も成虫も見られなかった。そこから直線距離で500m程度のところにある中央公園(図1A)では吸汁痕(図1B)、成虫(図1C)、および幼虫(図1D)が確認された。なぜ、中央公園で少なくない数の本種が発生しているのか理由は不明であるが、この場所に特徴的な状況として、野鳥のねぐらがある。本種が発見された地点には、

中央公園北側の地下駐車場入口付近から日曜市で有名な追手筋にかけて10本程度植栽されているクスノキがあり、葉は野鳥の糞で汚れていることが多かった。公園をボランティアで清掃されていた人に伺うと、この場所では、ムクドリが集まってねぐらを形成しており、夕方になると数百羽の大群が戻ってくるそうで、大量の糞による汚染被害が問題となっているとのことであった。ムクドリは留鳥であるが、他で繁殖した個体が飛来している可能性もある。ムクドリに付着してここに本種が到達した可能性は否定できないかもしれない。もしそうだとすれば、今後はここをねぐらにするムクドリによる拡散の可能性が懸念される。

幕末から明治時代にかけて樟腦の生産が盛んであっただけあって、高知県にはクスノキが多い。現在のところ、高知県での調査は限定的であるものの、ごく狭い範囲でしか発生していないように思われた。今後、東部や西部も含めて広範囲に継続的な調査が望まれる。

## 引用文献

藤本博文. 2019. クスベニヒラタカスミカメを香川県でも採集. へりぐる, (40): 18.

長島聖大・岩崎 拓・山田量崇. 2016. 2015年に日本へ侵入したクスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* の分布拡大状況. 昆虫と自然, 51(14): 26-29.

玉川晋二郎. 2020. 香川県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況. 徳島県立博物館研究報告, (30): 105-106.

山田量崇. 2019. 徳島県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況. 徳島県立博物館研究報告, (29): 9-14.

安永智秀・穆 怡然・長島聖大・山田量崇・高井幹夫. 2016. 最近日本に侵入した外来カスミカメムシ: *Mansoniella cinnamomi*. Rostria, (60): 17-20.

吉田一樹. 2018. クスベニヒラタカスミカメを愛媛県から採集. 月刊むし, 573(11): 52-53.